

●編集／社会福祉法人やすらぎ会 広報委員会

平成17年1月15日発行

第26号 新年号

特養住民／野中 ツナ 筆

やすらぎ



表紙の写真

元旦に行なわれた新年交賀会での一コマ。共に暮らす住民の健康と長寿を、そして今年一年よい年になることを念願して、手づくりのだるまに目を入れました。

卯酒うめなあー。

健康長寿

今年めでたく、百賀、白寿、米寿を迎えられる5名の住民をご紹介します。



百賀
盛島チエノさん 毎日、絶好調な私です。手踊りしています。



米寿
亀井 サメさん 健康で、1年を過ごせればよいと思っています。



白寿
高橋マツエさん いつも元気ハツラツ！声高なマツエさん。



白寿
佐藤 千代さん お風呂がとても大好きな千代さんです。



白寿
高下 ミナさん いつもニコニコ、笑顔が素敵なミナさんです。



あいや、まんつきれいだごとお〜。

歌川二三子さん来園

(十二月二十二日)

全国の福祉施設訪問一〇〇〇ヶ所をめざし唄のボランティア活動されている歌手、歌川二三子さんが、十二月二十二日にぶなの園に来園してくださいました。

当日はぶなの園にボランティアでご協力いただいている方など一般の村民の方も数十名来園され、約一時間の華やかなステージを間近で楽しむことができました。

親しみのある「りんごの唄」などを含め全5曲。驚いたことに、普段なかなか声を発することにできない住民の方が、歌川さんにマイクを向けられ昔懐かしい名曲を精一杯くちさむ場面が見られました。これには職員も唖然…。感動さえ覚えませんでした。

あつという間の楽しいひとときでしたが、住民の皆さんにとつて忘れることのできない一日になったはず。

生活相談員 高橋 渉

特別養護老人ホーム ぶなの園

新しい住民ご紹介

平成17年9月~12月



9月入居
【新町】
佐藤 千代さん (98歳)



11月入居
【高下】
百目木サキさん (91歳)

よろしくお願ひします。
(年齢は12月末現在)

迎春



新年のごあいさつ

安心の拠点をめざして

施設長
高橋 一雄

新しい年を迎え、皆さまの健康と福祉社会の一層の発展を願っています。

長引く経済不況、不安定な雇用状況の下で、介護保険制度の見直し、補助費削減、税源移譲など三位一体改革などが急速に進められています。待ったなしの改革の中で、財源不足やサービス水準の低下を巡って混乱が生じています。改革、見直しが目指しているビジョン、道筋が見えない不安・動揺もあります。

社会保障のサービス・介護福祉は、日常生活の切実なニーズに応えるものであり、不況・生活不安定の時こそ必要です。そ

してその改革の見直しは、利用者や私共サービスを提供する事業者に不安を与えるものであつてはなりません。

本格化する社会保障制度改革では、ぜひ高齢者や障害者など社会的に弱い人々を守り、支える視点からの議論をしてほしいものであります。しかし、厚生労働省は介護保険制度の見直しで、特養など介護保険三施設での居住費と食費を保険給付の対象から外し、利用者に自己負担を求めようとしています。

平成十二年度が始まって以降、費用が割安なため、特養の入所希望が急増しました。同じ「要介護4」の方でも、特養入所者

の場合は自己負担が一月五万円程度で済むのに対し、自宅で暮らす人は1割負担のほかに家賃や食費なども自身で負担した場合、平均すると、合わせて十万円ぐらいかかっているといわれております。施設と在宅の不公平をなくすることが目的であるとのことであり、所得の低い人への配慮についても議論されていますが、これら制度の改正は早ければ今年十月頃からと考えられております。

制度改正がどうあるかと、「人間尊重」の理念と「利用者本位」の原則を貫き、特に弱い立場にある人々への温かな心と、きめ細かな配慮をこめて進めなくてはなりません。

生活に安心・安定を与える二十一世紀の制度づくりは、この一、二年が正念場になると言われています。

私共やすぎ会は、高齢者が生き生きと暮らし、介護や生活支援が必要となっても社会全体で支え合う豊かな長寿社会の実現のため、安心の拠点をめざして福祉の発展に寄与して参ります。

利用者・ご家族そして村民の皆さまの一層のご指導、ご鞭撻を申し上げて、ごあいさついたします。

「特養から在宅へ」 自宅でも暮らすと「ふらふら」

鍵沢に住む柿沢成木さんは平成十四年八月、特別養護老人ホームぶなの園に入所され、特養の住民となり、ぶなの園での生活が始まりました。

ぶなの園での生活にはすぐに慣れ、またお話が大好きということもあり、職員にも気軽に声をかけておりました。

自分で決めた日課である散歩をしたり、生活の中で自分なりに役割を持ち、住民として生活していく場を良くしているという意気込みが感じられるようでした。

そんな中、平成十六年五月に特別養護老人ホームを退所され、本人の希望で自宅での生活に戻れることとなりました。終いの住み家としての特養という考えからすれば、とても画期的なことです。

そこでご本人に、在宅に戻れる時の気持ちを伺いました。退所するにあたっては、特に不安に思う事はありませんでした。家で孫や家族、地域の友達と一緒に過ごしたいという思いが強くなってきたことが、一番の理由でした。

毎日の散歩や日記（を書くこと）

と）を日課

として、老人クラブの活動に参加したり、友達と昔話を話して懐かしむことも楽しみの一つでした。（自宅に戻ってからは）見慣れた景色を見て、きれいだと感じたり、遠くの親戚を訪ねたり、家族で旅行にも行くことができました。

これからは、自分なりの楽しみを生かし、充実した人生を送り、孫たちから「いいじいちゃん」と呼ばれたいなあー。孫娘二人の花嫁姿も見たいなあー。だから長生きもしたい。

デイサービスに通所して、一緒に生活した住民や職員と話すことがとても楽しい。これから、いろいろなことに挑戦してみたい。

とても前向きな姿勢のお話を伺うことができました。自宅に戻られるには、ご家族の理解がとても大事になります。そこで、ご家族からお話を伺

いま（介護者自身の）健康上で、少し不安がありました。本人の意思を尊重することにしました。

デイサービスを利用している日は、安心して心身を休ませることもでき、趣味でリフレッシュする時間も大切にしていきたい。構えず無理のない考え方を話ししてくださいました。

なられた皆さんが感心し、見入っており、時には、社会情勢などを熱く語ったりもしております。これからも、ご自宅での生活が充実したものになるよう、支援していきたいと思っております。

（聞き手：生活相談員 泉川世理子）

華やかな雰囲気にかたくりの園

生け花を楽しむ



去る十二月十一日、東北特定郵便局長会東北支部（部会長・石井弘光川舟郵便局長）が、生け花を通じてかたくりの園の利用者と和やかに交流を深めました。

東北特定郵便局長会では、日ごろお世話になっている地域の人たちのために、少しでも明るい気持ちになってもらおうと、毎年各地でボランティア活動を行っている一環として開催されました。

当日は十名の方がかたくりの園を訪れ、世話役の加藤新町郵便局長から、村特産のユリをはじめ色とりどりの生花や、湯田町在住の陶芸家が焼いた花器三点を利用者の代表に寄贈されました。

生け花の指導は、局長の奥様が担当され、局長の方々は小雨の中、志賀来付近の清掃活動を行いました。



生けられる様子に見入る利用者の方々

利用者の方々は、最初遠慮気味に指導される方が生けるところを見ておられました。このように「これはこのように生けたらいいの？」



あや、さあ、まんつきれいだごどお～

七点生けられた花で、施設内はパツと華やいだ雰囲気になり、他の利用者からも、「今日は普段よりも明るくなり、目と心が癒された気分です」と大変好評でした。普段なかなか自宅では花を生けることがないだけに、このような機会をつくって、楽しんでいきたいと思えます。

所長 高橋 公男

シリーズ第4回 「認知症（痴呆症）について」

支援センターでは、村から委託を受けて家族介護者教室を年4回開催しております。教室で認知症は「病気なんだ」と理解していただけるよう、脳のはたらきや仕組み、その介護や対応等についての内容で行ないました。現在ではアルツハイマーの病名を多くの方が知っていることと思われます。介護なされている方が何度か教室に参加することで、その方々から「実際の介護に役に立っている。」という声も聞かれます。また、介護者同士が集まることでリフレッシュにもなっているようです。

認知症があっても、自分の家や地域で生活したいと思う気持ちは誰でも持っています。認知症では早期発見、早期治療で進行を遅らせることが重要になってきます。早期発見するために、基本診断時に希望者には物忘れテストを取り入れている市町村もあるようです。

最近では「介護予防」という言葉をよく耳にする機会があります。生活習慣病と同じように、痴呆の予防に取り組む必要がでてきております。それは、地域で暮らす自分のためのものです。身体的機能（身と心）の低下を防ぎ、維持していくために、各地区で様々な活動がなされていることを聞きます。そのような活動にお手伝いしたい、と支援センターは考えておりますので、お気軽にご連絡ください。

（尚、平成17年からは、「痴呆症」から「認知症」に改められます）

在宅介護支援センター 泉川美智子

第四回

やすらぎ会文化祭開催

11月6日・7日



がんばれえ

おっ

地域住民の感想

ぶなの園で行なわれた、やすらぎ会文化祭は十一月六日、七日と開催されました。

私は、友達と一緒に七日の日曜日に見学に行きました。廊下には、利用者の製作された作品、画と題いろいろ沢山展示されていました。私は、本当によく上手にできるものだなと思ひ、感心しました。これも皆、介護スタッフ皆さん方の努力の賜物と思ひ、感謝してきました。

ステージ発表では、オープニングで花嫁道中が披露されました。あの、箏笛(たんす)長持唄、嫁さんを受け取るまでの歌を聞き、昔が思い出され感動しました。

また、保育所の子供さん達の踊り、七才とは思えぬくらい上手に踊って、とても可愛かったです。また、遠く盛岡より高校生達のお琴の演奏も、とても素晴らしい、本当にありがたいと思ひました。

そのほか老後をテーマにした寸劇も行なわれました。私も、年をとっていることだから身に

おもしろい

特養住民の感想

しみて、考えさせられました。とても上手で、すばらしかった。常に自分の身体は自分で守らなければと思ひ、健康には気を付けております。

また、ボランティアの皆さん

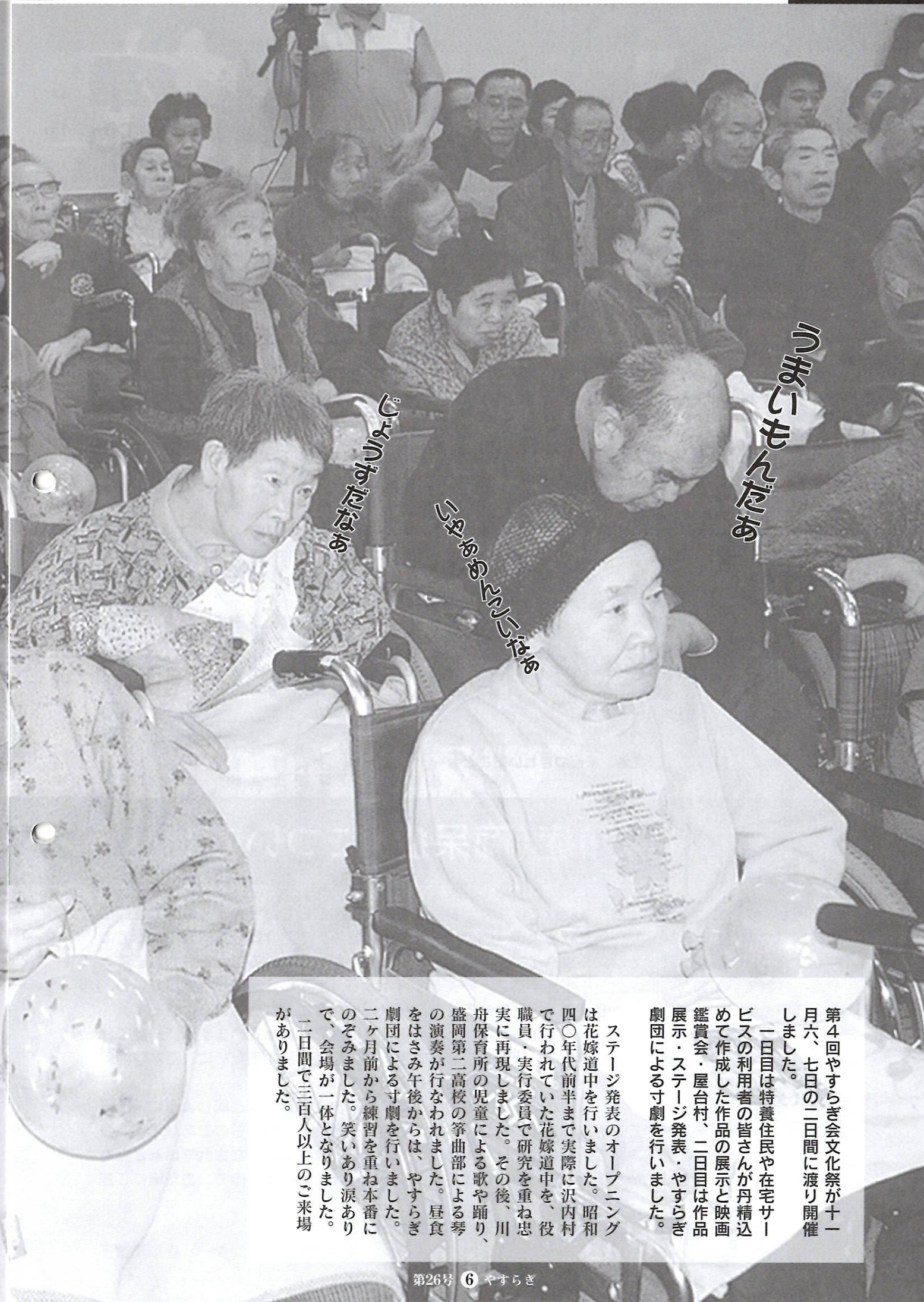
スタッフの皆さん方にお世話頂き、お昼にはおにぎり、豚汁ものたくさんご馳走になりました。ありがとうございます。

泉沢老人クラブ 菊池 ナミさん

最高だった。高校生の琴がすばらしかった。あの手さばきに、感心した。保育所のわらし遣めんこく踊っていただけ。良かった。また来年も楽しみだ。

高橋 カヨさん

南川 下川さん
花嫁道中がよかった。高校生の琴がすばらしかった。川舟保育所の子ども達の踊りが、かわいかった。本当に楽しい文化祭でした。



おもしろい

おもしろい

おもしろい

第四回やすらぎ会文化祭が十一月六、七日の二日間に渡り開催しました。

一日目は特養住民や在宅サービスの利用者の皆さんが丹精込めて作成した作品の展示と映画鑑賞会・屋台村、二日目は作品展示・ステージ発表・やすらぎ劇団による寸劇を行いました。

ステージ発表のオープニングは花嫁道中を行いました。昭和四〇年代前半まで実際に沢内村で行われていた花嫁道中を、役員・実行委員で研究を重ね忠実に再現しました。その後、川舟保育所の児童による歌や踊り、盛岡第二高校の箏曲部による琴の演奏が行なわれました。昼食をはさみ午後からは、やすらぎ劇団による寸劇を行いました。

二ヶ月前から練習を重ね本番にのぞきました。笑いあり涙ありで、会場が一体となりました。

二日間で三百人以上のご来場がありました。

家族会の声

今年も、文化祭を参観させていただきました。
 関係者の皆さんの大変なご努力にただ、感謝するのみでした。企画、準備、交渉などご苦労を考えますと、行事の大成功に心から、拍手を送りました。家族の一人として本当にありがとうございました。

高校生のピアノの演奏には、目の前で生の大合奏にただ、感動の心で聞き入ってしまいました。息のあった演奏に、さすが世界に発信できる実力なのだなど、皆さんの日頃の練習の成果に感動しました。これからも、聞く機会をほしいものだと思います。花嫁道中もあの朗々とした道中唄には息を呑んで聞き入りました。

往時の行事をつぶさに思い出す事が出来ました。娘を他人の手に渡す唄の場面では、つい涙が出ました。皆さんも、いろいろ思い出された事もあったでしょう。大変、良い企画でした。お嫁さんも、お婿さんも新鮮で可愛くて見とれてしまいました。見ていた主人も、コブシで目をこすっておりました。自分の娘を結婚させた時の事を居室に戻ってから、話し込んで泣いたり、笑ったりの一刻を過ごしました。皆さんのご努力ありがとうございました。

高橋 ヨシさん

文化祭感想 盛岡二高箏曲部

過日は第四回やすらぎ会文化祭にお招きいただきまして、誠にありがとうございました。生徒たちが普段演奏するステージとは異なり、聴いてくださる方を目の前にしての演奏に新鮮な感じを受けたようです。聴いてくださる皆さんが曲にあわせて体を動かしてくださったり、口ずさんでくださったりすることが、さらに演奏を楽しいものにしていただきました。

私たち盛岡第二高校箏曲部は、七月末に青森県で行なわれる全国高等学校総合文化祭に向けての練習をスタートするところです。昨年果たせなかった日本一になることを目指し、毎日の練習にさらに力を入れていくところです。今回の文化祭にお招きいただいた皆さんの前で演奏できましたことは、生徒にとっても大変励みになりました。これからも多くの方々に喜んでいただける演奏をしていきたいと思えます。機会がありましたら、ぜひお呼びいただきますようお願い致します。

これからも皆様どうかお健やかに過ごしてください。ありがとうございます。

箏曲部顧問 高橋 啓さん



まんつ、べっぴんな娘ついだ。



琴のきれいな音色に、みんなうっとり・・・。



見事な演技！

先日は、第四回やすらぎ会文化祭にお招きいただきありがとうございます。老人ホームでの演奏は初めてでしたが、皆様の暖かい拍手のおかげで、部員一同楽しく演奏することができました。あんなにも聴いてくださる皆様がいるという雰囲気、いつもとはまた一味違う緊張感に襲われました。しかし、近いからこそ皆様の反応が手に取るように分かり、とても嬉しかったです。まだまだ未熟な私たちではありますが、次回のお会いできる日を楽しみに、毎日の練習に励んでいきたいと思えます。

箏曲部二年 宮野 幸奈さん

先日はお招きいただき、ありがとうございます。初めての老人ホームでの演奏で緊張しましたが、お聴きくださった方々に喜んでいただけるような演奏ができて良かったです。今回のように、たくさんの方々から日本の伝統楽器・箏の音に触れていただけて嬉しく思います。またこのような機会があったら、と思っています。これを機に、これからも私たちの演奏を聴いてくださる方々に感動を与えられたいと思います。

箏曲部一年 吉田 智美さん

文化祭実行委員長御礼

第四回やすらぎ会文化祭が二日間の日程で、特養住民の皆さんはもちろん、地域の方々に多数ご来場いただき、盛大に開催されました。

開催に向けては、職員と地域住民の方々に結成された実行委員会、準備を進めてまいりましたが、職員はもとより、ボランティアの皆さんが中心に積極的に取り組まれ、多芸で素晴らしい、各施設利用者の個性豊かに表現された作品をはじめ、花嫁道中、川舟保育所の田植え踊り、盛岡二高の琴の演奏、最後には職員とボランティアの皆さんによる寸劇と、内容も充実したのものになったと思われまします。

特に職員の演技の素晴らしさには、ご覧になられた会場の皆さんも心行くまで楽しみ、堪能されたことと思います。こうしたふれあう機会を通じて、今後特養住民の皆さんと地域住民の緊密な親睦や交流が図れることを期待したいと思います。

最後に、今回の文化祭には職員をはじめ、ボランティアや地域の方々のご支援とご協力に御礼と感謝を申し上げます。

第四回やすらぎ会文化祭
 実行委員長 深澤 広見



川舟保育所の子供達、上手に踊ってめごいナアー。

善意

平成17年1月~2月

ありがとうございました
感謝申し上げます

【ご寄付】

・北島 勇一 様

【ご寄贈】

・川舟婦人部 様 ・和泉 盈 様
・佐藤タダ子 様 ・深沢 ミサ 様

【ボランティア等】

・どれみの会 様 (洗濯たたみ等)
・太田婦人会 様 (ホーム喫茶)
・西和賀高校 様 (住民介助)
・有馬 絹 様 (唄披露)
・泉 玲子 様 (講話)
・高橋美紀子 様 (講話)
・高橋 康文 様 (講話)



■特別養護老人ホームぶなの園
■デイサービスセンターぶなの園
■沢内村在宅介護支援センター
■ホームヘルプステーションぶなの園
■西和賀介護相談室
沢内村大字太田第2地割135番地
電話 0197-85-2322

■沢内村高齢者生活福祉センター
かたくりの園
沢内村大字大野第17地割140番地1
電話 0197-85-3388

お詫び

前号(第26号)にて、善意のボランティア欄で、活動された方のお名前が記載から漏れた方がいらっしゃいましたので、ここで追記させていただき、お詫びとさせていただきます。

・佐々木つゆ 様(唄、踊り披露)
・高橋 輝 様(唄、踊り披露)

編集後記

近年、地球温暖化と言われているなかで、今年の雪の量には驚かされましたね。これも、異常気象の一つなのでしょう。豪雪地帯とはいわれるものの、この雪は、春の訪れをいつまで遅くしてしまうのでしょうか。

私の春はまだ遠い…(-_-)

やすらぎ

第27号 平成17年3月25日発行

社会福祉法人やすらぎ会
広報委員会

高橋 宏明 高橋恵梨子
米沢ひろ子 石川ミミ子
高橋 紅子 深沢 恵子

ホーム喫茶のご案内

開店日 4月17日(日)
5月15日(日)
6月19日(日)

ご利用時間 14:00~16:30

場 所 ぶなの園 地域交流の場

お待ちしております!

ぶなの園 待機者情報 (平成17年3月15日現在)

①出身地別状況

沢内村 (24名)	盛岡市 (1名)
湯田町 (5名)	秋田県 (1名)
北上市 (3名)	東京都 (1名)

②介護度別状況

要介護1 (8名)	要介護4 (7名)
要介護2 (8名)	要介護5 (5名)
要介護3 (7名)	

合計35名

※入所を希望される方は、担当のケアマネージャ及び、ぶなの園までご連絡下さい。

在宅介護のお悩みは

在宅介護支援センター

【電話番号】

にご相談ください。

0120-85-2319 (支援センター直通)

85-2322 (土・日・祝日、夜間対応)

お気軽にどうぞ!

